特1
2961

国立国会図書館　タイトル『月令博物筌 16巻』 請求記号 特1-2961

ガラス使用

夏部目録

△印の夏三月をもつて要けりのべ

○夏の人象○占候○養生法等九丁を出

夏時令 此部には夏三月かゝる時候のりめとゝるなり

△夏日 三丁

△夏月 夏の霜 三丁

△夏朝 三丁

△夏夜 三丁

△夏野 五丁

△夏川 五丁

△夏暁 三丁

△夏夕 夏春 三丁

△夏山 五丁

△暑〜△涼 五丁

夏州水 此部には夏三ヶ月らゝるくさ木をとゝるす

△夏草 五丁

△夏木 △木立△紅葉 六丁

△夏柳 △柳さら △柳さら 六丁

△青素椒 七丁

△柚山椒 △蜜椒 七丁

特1
2961

国立国会図書館　タイトル『月令博物筌 16巻』 請求記号 特1-2961

ガラス使用

△荊葱 七ウ
△馬齒莧 七ウ
△苦草 七ウ
△蕗 七ウ
△蓼 七ウ
△蘇 七ウ
△根芋 七ウ
△蓴菜 七ウ
△海松 八ウ
△水草の花 八ウ

夏生類 此部は夏三月に生ずる季のいきものをあつむ

△蚊 八ウ
△蚊遣火 八ウ
△蚊柱 九ウ
△蠅 九ウ
△蛭 九ウ
△蚤 九ウ
△螢 九ウ
△子子 十一ウ
△蝸牛 十一ウ
△蛞蝓 十一ウ
△夏鷹 十四ウ
△鷹鳥屋 十四ウ
△鵜 十五ウ
△蠅虎 十五ウ
△蠅 十五ウ
△鵜川 十五ウ
△青鷺 十六ウ
△通鳴 十六ウ
△鮎 十六ウ
△胡鱇 十六ウ
△水鯰 十六ウ
△水鱧 十六ウ
△干鱈 十七ウ
△干鰈 十七ウ
△洗鱸 十七ウ
△鰯 十七ウ
△鮆 十七ウ
△鰹鍋 十七ウ
△鹽鳥賊 十七ウ
△魚藥 十七ウ

夏雜 此部は夏三月の雜事をあつむ

△短夜 △明安き夜 十七ウ
△蚊帳 △蚊屋 十七ウ
△扇 △伏翼 十七ウ
△團扇 十七ウ
△日傘 十九ウ
△蝙蝠 十九ウ
△夏斷 △夏書 △夏花 十九ウ
△夏籠 十九ウ
△安居 十九ウ
△夏書 △夏書 △夏花 十九ウ
△新麥 十九ウ
△切麥 △冷麥 十九ウ

国立国会図書館　タイトル『月令博物筌 16巻』　請求記号 特1-2961
ガラス使用

△煮冷△冷汁 麥飯 九丁
△麥粉 九丁 △木布 九丁
△草物 九丁 △汗移 九丁
△汗巾△汗拭△汗手拭 九丁

必用 此部ハ夏三ケ月の入用のこと共あつまるなり

夏養生 九丁 夏天氣 九丁
夏風 九丁 夏雲 九丁
夏霞 九丁

夏時令

此部ハ夏三月ハ四ツの時候の物とする

夏日 ㊇ 夫木 為家

夏の面の日影ゆるめ夏の日ふるびくさくさの風そそしこと

連 白雲ハ照そく夏日 新ハ宗祇

詩 夏日五字對句

九天鑪焰暖 避暑得深幽
六月玉聲寒 忘年遂久留

詩 夏日文詞 明 黄氏

深院塵消散午炎篆烟如
夢晝淹々 奥アカキ殿院ハ各別
涼レク奇兼ニシテ壁
埃モ消散シテ暑 軽風似與荷
盛リ 忘ルヽ
花約為送香来自捲簾ヲ
くト吹風ハ荷ノ花ト兼約アリテ花
ノ白ヒラ吹ヽ送リテ自ラ簾ヲ捲
クタメニ吹クハヤウニ
オモハルヽトナリ

夏月

夏の霜も　新古今　頼政

庵の面をさかりあふ夕くさのそゝさをけなくすゝる月の邪

夫木　為相

稲妻の　深山の木ぬれ　夏りあて　うをまくるる月の庵の邪

千五百番哥合　後京極摂政

藤の雲ぬけそ　わくやなき　ちつのふつるふみのうの月

夫木　河上夏月　定家

たゝ恋ひてなを　夜川のうをれさえ　ふねのへをあるる　夏ぬ月うの邪

家集　夏夜暁月　仲正

かりそめぬすくそうたく　秋よ　ゆてゆり明の月ぬ月るうる

詞　月そかくふく。秋ともまさて　ゆてあうの月るやなき　秋ふ浦き　樣ぬ月。うの　楽ふ。　浦ふ　まさて　なく。　秋ぬかふ　夜なすし　岩ふ　秋清ふ。　雲のつこ　ぬくなき　夜ふ。　極　悪明ふ。　夜ふすしく　家浦ふ　明

安ふ。月る　極もるふ。　本ぬ月もふを。　夕すゝみ。　光りすゝしく。

連　夏てふ　光むすし　夕月夜　昌叱

俳　長ぬ月　蚊ふふ　ふて　百友　其角

蛸つ　やふ　ふる　夏ぬ月　蕉

狂　みゝの　夜の　つ　ふ　ゆ　む　逸　墨

うくやもうくも　砂月うる　素堂

○夏の月ハ　ふ　ぬ　ふ　月の　ぬ　ふ　を霜　ふ　見

よむ事　ふ　ぬ　ふ　月の　ぬ　ふ　を霜　ふ　見

たて夏の霜も云　詩　白樂天

月照平砂夏夜霜　出詩朗詠集

唐詩選　李子白

水前看月光疑是　此上霜

詩　七字對句　詩礎

涼月照桃歇窓倦　水偏清

澄泉繞石泛觴遲　松下涼

山徑晚雲収獵綱　足涼風

国立国会図書館　タイトル『月令博物筌 16巻』 請求記号 特1-2961

ガラス使用

氷門涼月・挂漁竿（スイモンリヤウゲツ カクギヨカンヲ 月ニヅリサホニウツル）
孤月涼（コゲツスズシ スツキスル）

夏暁（あかつき）

夜の明（あけ）

㊇ 續後撰　定家

明なりゆくつきのかげをうしなはぬ
花のまくらにも似るあけぼのの空

夏朝

夜明ともよこ明て後もこゝ

㊇ 玉葉　雅有

ちぎりたがふこの夢いとはげしくて
あくるをまつる明ぬ夏の

夫木　夏朝　為家

夏をあさみ夏のくもいとはやくも
ふきこす涼しさねぬあけの方

夏夕（夏暮）

㊇ 玉葉　後頼

松ぞ夏ふく涼しさする
浦人の心もあらしをみちけり

俳 数いあれとせいたれたる夕くる道す

㊇ 夫木　入道摂政

夏夜

夜の池の行よりす

かくて火の光も涼しく夕くるのも
六百番哥合　後京極摂政

うつてねの夏ようさたる明わたる
山ちかくきす一声ふれそめ

同　夏夜短　定家

夜のよいさゝかあけぬるまゝ
むしもとゝかくるさゝうねの夏

詞 老ても涼しかをかくすれい。夏の
のかゝ。夏。数をうつ。風涼しかをと
らへ極も裏とるさをを。夏ようび。
月ものこる。数の声。秀より

俳 夜の秋の秋どの秋の起りより其角
夏の秋いとふもみゝをは秋の秋一秋
秋秋ハるかそゝ秋の夏ハ秋ゝる一鼎

㊇ 夏夜五字對句

簟涼清露・夜（テンハスズシ セイロノヨ）
琴響碧天・秋（キンハヒビク ヘキテンノアキ）
山露侵衣潤（ヤマノツユ ニヒタヒコロモヌレル）
江風捲簟涼（コウフウ ニキテンヲ スヒル）
（クモナキノフキノアキ 上ル）

国立国会図書館　タイトル『月令博物筌 16巻』　請求記号 特1-2961
ガラス使用

詩　夏夜七字對句　詩礎

池邊・命海鱗・風月　襄翠幢・水亭閑

浦口回船惜芰荷

詩　夏夜之詞　明　楊愼

湘水魚鱗冷簟文　博山爇篆罷鑪薫

魚ノオドルケシキヲ　スゴキシキヲ　ナテヨル春

ヲノククリモキ　ニテスゴシイ　開牖對影延新月

坐愛金波洗火雲　月ニ對シ　涼気ヲ

オボヘヒヤハカナル波モ日デリ雲ヲ

アラヒサマスカトオモハル、ト

夏山　あ　亀山百首　子雄

いろふかてうすくなりゆくさんの

夏山のまをとこ本法か富士とめてん

連　夏ふ出て浮世思ん深山うる　紀巴

俳　夏やすいけのこのてくれ　畠山重忠

花はーむけも夏山のはな車　尾貫

詩　夏山五字對句

山樹含斜日　秀水涵秀色

地風浚卓涼　奇峯出奇雲

詩　同七字對句　詩礎

幽谿鹿過苔還靜　夏雲端

深樹雲來鳥不知　冷溪山

夏野　あ　亀山殿　為尹

里人のあくるとうの小野ふる里

詞　野の草はるる月夏草。

とこ夏。風涼。姫ゆ

俳　夏川の笛ぞ涼しき夏野哉　一井

連　涼しさ夏川　紹巴　夏川　あ　新　古今

涼しさは秋やかすひて初瀬川

ふる川野人の秋の下かぜ　有家

国立国会図書館　タイトル『月令博物筌 16巻』　請求記号 特1-2961
ガラス使用

俳　月花や梅津の辺の長閑川　夏菴

夏川の寄に寄る水の涼しさ　重五

△暑ー　△涼ー　暑氣　六月ニ限ル

いくつも寄てあつさ〳〵の夏三月ゆくさ〳〵と〳〵〳〵いくるも

又同ー事なり涼（哥連俳ハ六月の部ニ三月ニ出ス

夏草木

此部ハ夏三月ニ生ずる草木を記す

△夏草　（哥）新古今　藤原元真

夏刈ハ春ゆくかたのうら

玉川の乃りハもむすハ苔ニ

詞　春ゆくる。なびをゆくる。ぬ

かる　山ふかの往来。谷ゆけ来野

来のそ。抑ゆるが庵。ふる。苔むす。

なる迷ハ庭ふるふる。ハ。ふる

沈茅。春ゆく。蓬。篠ゆ。蓬。

蛍ゆげ。ふるゆく風。ゆくゆる。香

あ住の香とさ　体　拙子　俳諧百

合同上出　のゆく里人　結ハ世子流ハ

連　武蔵野の夏草ハ民の夏草ハ宗因

俳　夏草やかつ刈ハ世の古帆ハ宿

夏草ハ刈ハ世ハ世ハ古帆ハ宿

夏木

△夏木立△若葉紅葉○結

△若葉　△嫩葉　ひのゆ

てゆく　ゆくゆくとゆく　拾五ハ出

（参）玉葉集　院

ゆくて積ゆくゆくゆくれ

ハのゆくゆくも別ゆくゆく

俳　菱摘ゆ結ゆくゆくゆくゆ鉄山

夏ハの形ハゆくゆ夏木ゆくゆ　蕉雪

（詩）夏木五字對句

掃曙樵清賞　緑樹溪邊合

披雲坐緑陰　清山郭外斜

（詩）仝七字對句　詩題

漢々水田飛白鷺　日月昏

国立国会図書館　タイトル『月令博物筌 16巻』　請求記号 特1-2961
ガラス使用

陰々夏木囀黄鸝

斜陽映閣山當水

微緑含風樹滿天

僧院深

樹松雲

水殿閑

詩 夏木之詞 唐 王昌齢

綠樹重陰蓋四隣青苔日厚自無塵

夏木立クロミシゲリテ科頭箕踞長松下白眼看他世上人

心合タ人ノ外ハ交ラズ松ノ下ニ載テ三居グ

夏柳

葉柳 かひらぎ 秋タ

榊 榊 万葉に佐賀木花とあり

歌 新勅 重政

祈るの榊を松も志あり けく

榊 榊の虫 ひるがほ 卯花 蓋

青蓼椒 邑椒 蜀椒 倉谷より出るもの

甚美なり丹波丹後小其枝をつゝ今丹波の朝倉と稱と又奥州津軽の産大きて氣味勝れり

山椒 ふしぎなる時の妙術 灰を甜るべし又男なれば女の女なれば男の ぬくとれば忽ち治

蘭草 ぬくもよし

羽倉 本社丸つゞの実 椒 夏支

柚山椒 所々稀 枝葉相似て香氣柚橘の類

かゝるべし実長大 葉大きて丸かゝず

崖椒 葉大きて細花 ちゝさ実 緑豆味美なり

刻葱 春葱 初生 針のゝ酢 醤に和 生 食

国立国会図書館 タイトル『月令博物筌 16巻』 請求記号 特1-2961
ガラス使用

馬歯莧。醫鞭草。醫杖草。金非廩。和名ウマヒル

俳 たゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ妹ゝ馬莧 [illegible]

妙術 [illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[

蚋と煙や麋蚊の祭めこ云其角

注 はそみあるもあるぬくもあるう

屋かかるたりやふべき 宗朋

詩 蚊之詞 明 陳成

白鳥向炎時営々應苦饑昼ハカゲニカクレテウヘ進身因暮夜得志入簾惟夜ハ已カ時ヲ得タリトシテイヅクヘモ入リ来ルヲ

噓吸吾方困飛風汝自嬉吾等ハ汝

清

風一朝至倏忽竟安之 今ハ秋風ニフキキタラハスゴクト何処ヘカ去ントイフチリ

蚊遣火 △蚊火ともいふ

季 秦 俊頼

ありはの煙ふるてことすくれるのもしりきるかう那

詞 彩を作りけり紙ぶるやや夜あくまたるふ蚊の変もしらうひ

ひとりもせずに煙。藻の葉。蚊の聲遠き。ゆびくるひとし墨。

たびはの

蚊 蚊をやかつる方なきうう基角

注 蚊ありの大い巨燈の四ふてのあるあるいの河のすぐ丸ぐいの名ハ架都

蚊柱 蚊の多く集ると云 蚊

行ふ蚊の波ばかるく其角

蜻 蜻子。蟆子。山中。 洗濯の

蜻蛉 水蛭ハ水中ふるあり草蛭しいの草木ふるあり

弁蛭といふ者あり状かりがいの

ぶ〜大るる者一尺ふるあり

蚋 蚋 蚋 形や船ふ蚋

らぶ朝ふ〜ふ 老角

注 多の虫もあり人を痛るい

これや大ふれのこの出る 道明

螢 新蛍。山蛍。流蛍 真名 丹

鳥夜光。霄燭。丹良。

国立国会図書館　タイトル『月令博物筌 16巻』　請求記号 特1-2961

ガラス使用

暉夜燐。夜半螢。熠耀。

夫木　知家

[illegible]

室治吾首　水邊螢　頼氏

[illegible]

家集　海辺螢　清輔

[illegible]

夫木　樹下螢　隆祐

[illegible]

夫木　草螢　俊頼

[illegible]

家集　螢火乱風　仲正

[illegible]

帯槃并音合　螢照細流　仲正

[illegible]

家集　河辺見螢　好忠

[illegible]

長久哥合　深河螢　経信

[illegible]

同　行路螢　経信

[illegible]

同　古寺螢　経信

[illegible]

夫木　螢火透簾　寂蓮

[illegible]

後拾　沢螢　公雄

[illegible]

玉葉　叢間螢　左大臣

[illegible]

国立国会図書館　タイトル『月令博物筌 16巻』 請求記号 特1-2961

ガラス使用

夫木　江螢　家長

[illegible]

夫木　螢　光俊

[illegible]

拾玉　螢火蓮簾　慈鎮

[illegible]

詞新てしたびろ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]の窓ゆゑ[illegible]
えんよせて
すゆて[illegible]竹灯　和歌
秋の[illegible]

連　花巻こへそく紅流るる宗養
奥山の[illegible]もるべ[illegible]る昌察

俳　い漫やあ[illegible]二[illegible]のやる姫　其角
君来ませ笹の葉乃雨降い言水
逢ひ[illegible]の流く　抓むやる[illegible]真起
[illegible]の葉ふまこ[illegible]流水
抓む時やるふまる力る青蛾

狂　[illegible]
[illegible]

詩　螢五字對句

江海呼窮鳥　鳥従烟樹宿
詩書問聚蚊　螢傍水軒飛

詩　今七字對句

水調揚苍歌　九曲照前流
江邊螢火入燕巣　水上多
荒簷數蝶懸蛛網　弄琴畫
空屋孤螢入燕巣　寄水流

詩　螢火之詞　唐　杜甫

幸因腐草出敢近大陽飛
多[illegible]ムラヨリ幸ニ生スヒカリアレ
日光ニ近ツクコハナラヌゾ　未
足臨書巻時能點客衣
ミルホドノ光リハナケレ　路ヲトヌル
人ノ衣服ニチラ〳〵トスルゾ
隨風隔幕小帶雨傍林微
風雨ニシタガヒチラメキ　巻
カフモトカク小キモノゾ　十月
清霜重飄零何處歸霜ノ
項ニハイツクヘ往
ヤラレヌゾ

国立国会図書館　タイトル『月令博物筌 16巻』 請求記号 特1-2961
ガラス使用

詩 仝 唐 李嘉祐

映水光難定凌虛體自輕
水面ニ飛カケツノ光イヅレノ処ニ定メ難ク虛ヲ凌ギ高クトビユクソノ体自然トカロシ

夜風吹不滅秋露洗還明
風フケド螢火ノ燈火ハ滅ヘズ夜露ニアタレド味カラズ却テ明光ヲ倍ス

向燭仍藏焰投書更有情
火ニムカヘバ光ナケレドモクラカリニテ書ヲヨムニハ猶少シクタヨリニナルナリ

流亂景來此傍簷楹乱レ飛フ影ノ簷クチヘ楹ニソフテウツルナリ

詩 仝 唐 鄭谷

故國無心渡海潮老禪方丈倚中條
セノ一モノタ故郷ヲ出テゼンヲ子リテヲル

夜深雨絶松堂靜一點山螢照寂寥
夜アメヤミ禪室ヘテラシクルホタルスントシタヅ

螢故事

囊盛照書
晋ノ車胤ハ博覽多識ニシテ書ヲ讀ヲ好ム家貧シテ常ニ油ヲ得ルヲ得ズ夏ノ夜螢ヲ集メテ絹ノ囊ニ入レ盛リテ昏ヲ照シテ讀ケルト

弓矢却敵
務成子螢ナリ 火丸ヲ製ス

漢ノ刘子南其方ヲ得テ調合シテ佩ケルニアルトキ虜ト戰フテ圍マレケルトキ矢ノ来ル雨ノ如クナリシカ刘子南カ馬ヨリ五六尺バカリニナレバ其矢地ニ墜テ子南ニ中ラズ傷ナカリシ故虜ノ兵モフレギニ思ヒ神ナリトシテカコミヲ解去リシトナリ

螢火丸
一名冠將丸又武威丸トモ名ヅク螢火 鬼笠前羽 蒺藜各一 雄黄 雌黄各一 両 殺羊角煅性ヲ

国立国会図書館 タイトル『月令博物筌 16巻』 請求記号 特1-2961
ガラス使用

存ス 磨石 燒焦 両半 共ニ末ト為レ雞子黄丹 鐵鐘柄八鐵處 雄雞ノ冠一具ヲ以テ和シ搗テ千下。丸シテ杏仁ノ如ク三角ニシテ絳囊ニ九丸ヲ盛テ左ノ臂ニ帶テ從軍腰ノ中ニ繫レハ五兵白刃ヲ辟ク家戸ノ上ニ掛ケヲケバ盜賊ヲ辟ク又能ク疾病惡氣百鬼虎狼蜂蠆諸毒ヲ治ス

試合

江州石山寺ふあり此谷の螢常の螢火より倍と毎年芒種の五月の後五日夏至の中の後五日に至り十五日の間と盛りとす北ハ橋とかぎり東ハ川をかぎりて曾て外ふあらず時節過る時ハ宇治川ゑ至る此所ハ夏至小暑六月の間と盛りとす然ども共瀬田の多さふもうず俗ふ瀬政の亡魂化して成るとぞ

腐

草化成螢 礼記 仙書ニ ふ有

法

螢火虫 百教 雲母石 二ヶ共ふ研り末ゝ是を筆に付て何ふてもひらゝと現さんと思ふ画の上ゑ操るへ一次すてぬきへ一ト月の内日の晩ゑ光りて現ず十二次ゑ一年の間光有

子子

蛣蠅 蝎 赤虫 金倒虫 此虫化して蚊ゝなりゝく

蝸牛

蟻牛 蛛蠃 蜆蠃 蝸蠃 蝸蠃 蝸

まのびくゝあるてゐるり。土牛いとのあるゆゑよりゝ

(多) 夫木　寂蓮

牛ぬるふぬまるる屋のかゝるり角あれいくそ身をいたのゝそ

(俳) 蝸牛角ありるよ泥ゐ　芭蕉

白露や角ふ見てもかゝるり嵐雪

(俳) 牛とゑをいるるかゝるり　訥子

蛞蝓

附蝸、土蝸、鼻涕蟲、蛞蝓螺、托胎蟲、陵蟲

○附蝸。土蝸ゝるふかゝるり似くる故ゝ。蛞蝓螺も引つゆくかゝちにくゝ。鼻涕虫いゝるゝるるりの出るといゝ。托胎虫。陵蟲いづれも文字の通ゝ

(俳) 蛞蝓の形来ふゝるり蟲を香　移竹

夏鷹

夏ゝるゝ鷹ゝるふ小鷹ゝあり雲雀ゝくに用ゐ

鷹鳥屋籠

羽を替させんなふ鳥屋へ放ち置ゝ四月堺入の所ゝ委ゝ

(俳) 鷹ゝ羽ゝ毛ゝ生ゝるゝ頃ゝ　不俗

鷸

正字詳ゝ。ゝゝ大小の二種ゝあり大ゝるものハ頂ゝ白き冠ゝあり小ゝるものハ此冠赤ゝ

蠅虎

蠅蝗

蠅蝎

蛆ゝも昏種類多ゝ中に赤頭を忌ゝ淵明ゝ文ゝ見ゝり

(俳) ゝゝの子ゝ孵ゝるゝ沢ゝゝ其角　ゝゝゝゝ蠅を打ゝり韓退ゝ　仝

鵜川

鵜飼　鵜舟　陸鵜

夜川。漁人鵜ふ魚ゝ取せ未明ゝ下らざる時其のゝゝ出ゝ則ち自ら出ゝ鵜ゝ吐ゝ漁人の手ゝ入ゝ出ゝ吐ゝ又妙ゝ濃州岐阜至て妙ゝ得ゝ漁人多ゝ一度ゝ十四双ゝ放つゝ

(多) 新古今　前大僧正慈圓

物ゝ知ゝ顔ゝ鵜ゝ川ゝ

国立国会図書館　タイトル『月令博物筌 16巻』　請求記号 特1-2961
ガラス使用

八十うぢ川の夕霧乃こそ

同　　舜蓮法師

うゐ初る風さへ袖にふれや
後の逢ゆくかりの夜の雁

夫木　　光俊

山川の小夜ふけぬれば柱人
うゐの子にまれ舟ぐるく

拾遺愚草　雨後鵜川　定家

うゐの舟村雨もぐるるこゑ
雲ゐの星のうかぶあるこ人

草根　　遠近鵜川　　慈鎮

宇治川のせゞの足代木うゐの舟
あられもやうる柱のしまく人

詞　夜川　夜川の舟　夜川うゐ舟　鵜川うゐ火。うゐ火。うゐ火。さゞ。

夜川の舟の夜川うゐ舟

詞　松浦川。字治川。ふしの川。夏川。こや瀬。こやき瀬。沢水。ひの前。水車。簾。

俳　ふぢの藤。ふる鮎。やな。松浦。さ。蔵

狂　はくりし。しのぶ。はつ。ひ。ぬ。生。砌。ふ。ふ。ふ

蟹鰒 塩漬または酒又糟に漬ても可し

鹽鳥賊 異名 鯉魚。塩ぜのいか 干鳥賊

夏雜

此部に夏三ヶ月の種々の雜事をあつむ

短夜 明安夜 新古今 式内蹇 定家卿竹のさすさゝ風の音ふけて短き夜の明ぬる

詞 なくさすは月安さ池の水舞火 文選 庭蚊の声 月うゝ 祢

連 ゆくらの月か雲にいまこそ出る 宗牧

俳 みじかき夜は 花のあゝ不梅船

蚊帳 蚊屋 衣の家 蚊屋賣

俳 翌の秋いまこそ蚊帳外 玄流 世の中と思ふ

蚊帳外 異名 氷紈 雪雀 回風 招涼 かいとり 風うち 九重卿

扇 新古今 忠岑

夏衣 ふるさと秋の方へ寄るとつゆ迄ときはの長とすゝん

詞 風なれ人 月紅 月 夏 月 夏 ゆふすゝ 涼し 秋 月 夏 秋 月 夏 秋 月 夏

流風入坐・飄歌扇・扇影飄

瀑水當階・濺舞衣・逐酒来

匂数時・交合歡扇・共徘徊

追杯・挙・石榴裙・涼風前

伏翼 扇いとく蝙蝠を見て作り出とゆへ扇と直

かかいかりくい清少納言の枕草子かとそふ〜かとちひ〜きの去年のかいわりとかけり

俳 蝙蝠よまれしも沈寒 北枝

団扇 俳 秋の来るのたくそ 青玉

思ひと菴のうちとかの一十丁

仏義ふい拍ほれぬ世うちとうる

狂 むかしかの菴の都が大うちとの上先く風をよぐすり 潮松

詩 団扇之詞 唐 劉禹錫

団扇復団扇奉君清暑殿君ヲ御ス

殿ニテ君ヲ御スル秋風吹庭樹從此

不相見 二八未三秋ヲ上有無

鶯女蒼々華蟲編明年入懸

袖別是机中練 ホカニビロウタタリ

オトキスルトキハ又タタレミフカレ

日傘 ひさしもの 雨傘の如し油

をぬりて暑を防ぐ

編笠 荒州を以てこしらえる

勢州江州より多く出ル

結夏 △夏籠 △夏佛者四月

六日より七月十六日迄一室に

ゐり安居して他行せぬを云尚

四月十六日の処又夏十九丁ホ是参照

夏断 △夏経 △夏花 △夏書

△夏断 △安居 △右いつ

国立国会図書館　タイトル『月令博物筌 16巻』　請求記号 特1-2961

ガラス使用

も夏ゴもりる内の行状なり夏籠りる内ハ佛ゴ花を供無縁の仏聖
僧又聖經の類を書寫ゴ俗家も夏斷といゴ序事酒肉等慎む
者あり△安居とハ形静穏ゴ安ゴいふ要期此ゴ住まるゴ居ゴ

新麥 早きゴものハ三月ゴ成ゴ
れゴ他物ハ五六月の内ゴ也

切麥 △冷麥○天寒の時
ハ溫飩をもちひ天
熱の節ハ冷麥ゴ成りもゴる
制ハあるゴ寒溫の違ひのゴと

煮冷 △冷汁○夏ハ食物又
ハ汁ゴも器へ入ゴ
井水ゴ浸ゴ冷ゴ成ゴ
たるゴ紀食ゴ之ゴ也ゴも云

麥飯 狂 麥ゴ成りゴ付ゴ其ゴ他ゴ
ゴ麥ゴ多ゴ種ゴ成ゴ麥ゴ也

麥粉 俳 拉ゴ麥ゴ粉ゴ
麥粉ゴ那 十六

木布 布のゴ麻ゴ成ゴ
りのゴゴ也ゴ

單物 △**汗衫** 官家の下
着ゴ成ゴ
或ハ袖ゴ成ゴ
ゴ成ゴ俗
ゴ成ゴ襦袢ゴ成ゴ

汗巾 △汗拭△汗手拭 汗
ゴ成ゴ手巾ゴ成ゴ又
夏の用具ゴ成ゴ

俳 ゴ成ゴ事ゴ成ゴ也 汗拭 負九

必用 此部ゴ夏三月の入
用の事ゴ數多ゴ成ゴ

夏養生 素問云夏三月ゴ蕃秀
ゴ云天地の氣交ゴ萬
物繁茂ゴ夜ゴ卧ゴ早ゴ起志ゴ
怒ゴ事ゴ成ゴ英花ゴ也秀ゴ成ゴ
天氣ゴ成ゴ成ゴ事ゴ得ゴ成ゴ
夏氣の應ゴ成ゴ處ゴ也養生の道
○水ゴ成ゴ水ゴ洗浴ゴ成ゴ事ゴ云○お
ゴ成ゴ石の上ゴ坐卧ゴ成ゴ熱ゴ成ゴ

国立国会図書館　タイトル『月令博物筌 16巻』 請求記号 特1-2961
ガラス使用

特1
2961

生下冷うれい疝と生ず○風は黄ず
閉ことなれ風痺等の病を生ず

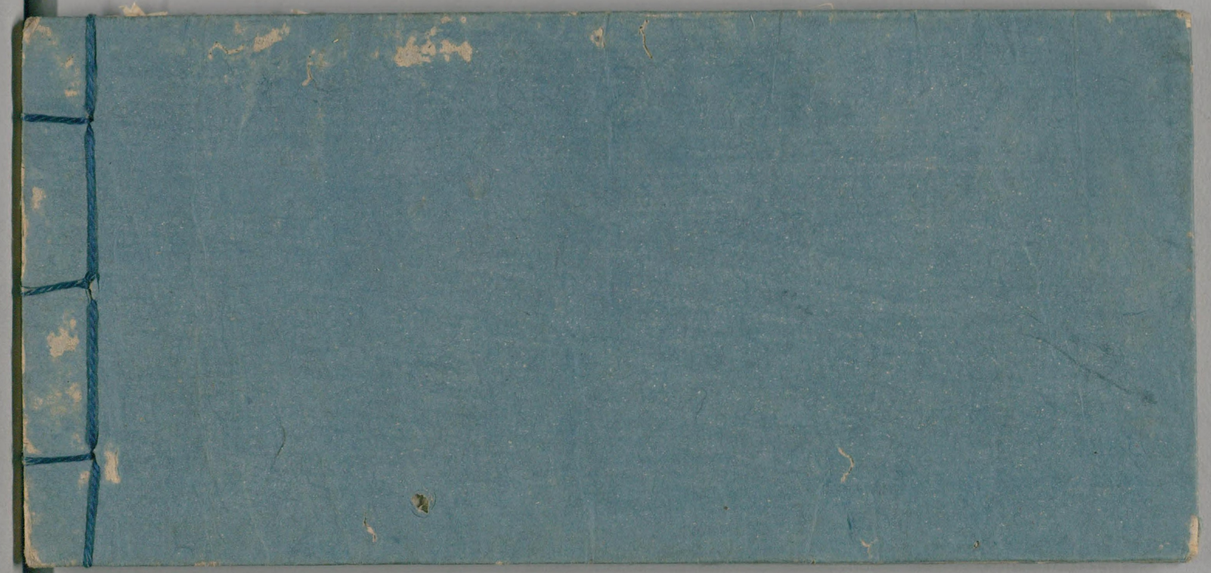
夏天氣 日蝕黄なるい雨多きも晴生
○月は暈なるい多くい風生

夏風 夏風い中を吹萬物を長養
をなす○夏い火ゑ火生土と
土を生ずるゆえ土は中央の位方角は
いつれも干支なれば戌未の方に寄俗ホ
五月西にて西風を雨とするものは時
節の火氣より火生土の土の方に生て
吹風なると次へ○東風い常は雨なる
ことの不も入梅の中に土用い雨なるべし
然ども久しく吹つゞきて風西にうつるい雨
なるべ○南風い時の火と對ゑ故雨へ

夏雲 風の方位はまちがひて
こゝ雨とまるべし

夏霞 暮は西の方赤くして
南へ廻るい日和とし秋
ふらずうてい西より北へまるゝ

国立国会図書館　タイトル『月令博物筌 16巻』 請求記号 特1-2961
ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『月令博物筌 16巻』 請求記号 特1-2961

ガラス使用